

発⽣制御部門
分子細胞制御部門の
「ワタシ」が
できるまで

薬学部卒業後病気を治す物質の研究に携わっていたが、なぜ病気になるのかを知りたい！と、進路を変更。

発⽣研を知ってからは、徹底リサーチ。興味があった神経変性疾患にかかわるタンパク質を研究している小椋光教授へ直接アタック！

以前の研究では感染しやすい理由で酵母は利⽤不可。今は、その酵母が大切な実験モデル。研究って奥深い。

発⽣研での「⽣命の根本」を理解する研究は、甘くない。だから、もっと深く取り組んでみたいと思います。不安はあるけれど、今後は研究の道に進んで、精いっぱい何かを追いかけてみたい！

国際会議で研究室がホストになった時は、ヨーロッパからの研究者をお出迎え。英語で話さ度胸がついたゾ。

分子細胞制御分野
博⼠4年
澤村 理英さん
さむら・りえ

1年に1回の研究室旅行。原子力発電所見学で、ついついみんなでガイドさんを質問攻めに。…スミマセン…

1年目はスムーズだったのに、2,3年目でちょっと停滞…。研究は、ガマン、ガマン。

本九祭ではもう一つのモデル動物、線虫を展示。光ってクネクネ動く姿に子どもたちも興味津々。

幹細胞部門
幹細胞誘導分野の
「ワタシ」が
できるまで

あっという間の2年間。修士は実験を積み重ね、手技を身に付けるための時間でした。博士課程に進んだら自分でテーマを持ち、いろんなことにチャレンジしたい。そろそろ学生気分を捨てないと。楽しみだ。がんばるぞ〜！

熊大理学部を卒業後、江良淑実教授の研究室へ。理由は、幹細胞の研究がしたかったこと。

血液内科の臨床医の経験を持つ江良教授のもと、難治性血液疾患の患者さん由来のiPS細胞をつくり病態を解明する研究に着手。

iPS細胞は、ほぼど素人の自分にも作れる。それだけスゴイ技術ってことだ。感動！

手技的なミスに冷や汗。こればかりは経験がモノを言う。めげずにカンバいろ。

幹細胞誘導分野
博⼠1年
伊達 一平さん
だて・いっぺい

発⽣研に新しく入った人を招待するBBQパーティ。裏方スタッフとして奮闘。

気分転換は、学部時代から続けているサークル活動。「YOSAKOI」で踊ればリフレッシュ完了。

遠慮せずに質問すれば、先輩やポスドクが助けてくれる。先生からのアドバイスも、発想の転換に役立った。

発⽣研への道

大学4年制学部・学科卒業⽣
医・薬・理・工・農学部等様々な学部の卒業⽣

社会人
学部を卒業して、社会人となった方

医学教育部所属分野
細胞医学分野、分子細胞制御分野、組織構築分野、損傷修復分野、多能性幹細胞分野、組織幹細胞分野、幹細胞誘導分野、肝臓発⽣分野、脳発⽣分野、腎臓発⽣分野

熊本大学大学院
医学教育部
修⼠課程

HIGOプログラム

熊本大学大学院
薬学教育部
博⼠前期課程

薬学教育部所属分野
分化制御分野、⽣殖発⽣分野

薬学部薬学科等
6年制学部の卒業⽣
薬剤師養成の薬学科等6年制課程を卒業した方

他大学・他研究科の修⼠課程修了者
様々な大学院修⼠課程の修了者

医学教育部
博⼠課程

発⽣・再生医学研究者育成コース

HIGOプログラム

薬学教育部
博⼠後期課程

薬学教育部
博⼠課程

他大学・他研究科の修⼠課程修了者
様々な大学院修⼠課程の修了者

社会人
大学院の修⼠課程を修了後、社会人となった方

ブレ柴三郎プログラム⽣
本学医学科の学部⽣で大学院医学教育部に進学する意⽬のある方

世界へ羽ばたけ!!
知識を磨き、興味の対象をとことん極めたら、教育・研究機関のみならず、産業界・行政機関にも、そして九州から海の向こうにも広がっています。

「伝える力」が身についた英語でのミーティング

組織幹細胞分野
修⼠2年
橋口 篤史さん
はしくち・あつし

まったく違う分野からでもチャレンジできる！

中学の頃から実験が好きだったのですが、進学した⾼専や、その後編入した鹿児島大学工学部ではあまり実験をやる機会がありませんでした。そんな時、熊大の発⽣研を知り説明会に参加、発⽣医学のバックグラウンドはゼロでしたが、一から教えるので大丈夫と言われ、進学を決意しました。現在は小川峰太郎教授のもとで血管の形成などを見ており、シャレード実際に血管ができる様子などを目にとると、ますます興味が深まります。修⼠課程で基本的な実験手技などを身につけたら、次は博⼠課程で、自分で考えた研究にチャレンジしたい。まったく違う分野から発⽣研へ来たからこそ自分で道を切り開き、どんな経験も役に立つということを証明したいです。大切なのはできるかどうかではなく、やるかどうか。その気持ちを忘れずにがんばりたいと思います。

多能性幹細胞分野
修⼠2年
師岡 菜由さん
もろおか・なゆ

「伝える力」が身についた英語でのミーティング

発⽣医学に興味を持ったのは、iPS細胞を開発した山中教授のニュースがきっかけです。熊大薬学部の3年生から発⽣研の桑昭苑教授の研究室に入っていたこともあり、最先端の研究にもっと触れたいと進学を決めました。現在は細胞を扱う実験などに携わっていますが、修⼠課程が修了したら就職したいと考え、就職活動も始めています。桑教授の研究室には留学生がいるので、ミーティングは英語。英語は使ってこそ身につくので勉強になります。ポスドクや博⼠課程の先輩のアドバイスにも助けられます。研究は同じことを地道に繰り返す作業も必要なので、研究内容にどれだけ興味が持てるかが鍵。進学前に知識がなくても勉強する環境は整っていますから、「おもしろそうだ」と思える研究があれば、躊躇せず発⽣研の門を叩いてみてはどうでしょうか。

〔HIGOプログラム〕

「グローバルな健康⽣命科学・バイオニア養成プログラムHIGO」の略称です。九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結び付けて、諸課題の解決に挑戦できるグローバル（グローバル＋ローカル）な健康⽣命科学・バイオニアを育成するプログラムとして、平成24年度の「博⼠課程教育リーディングプログラム（複合領域）」に採択されました。医学教育部と薬学教育部にまたがる教育プログラムで、社会文化科学研究科や行政・産業界の協力のもと、高度の専門的知識をもち、産官学で活躍する文理融合型でグローバルな健康⽣命科学のリーダーを育成します。博⼠課程教育プログラムですが、修⼠課程から履修できます。履修⽣は入学後に選抜試験によって選抜され、奨励金等各種支援を受けることができます。ほぼすべての科目が英語で開講されます。

〔発⽣・再生医学研究者育成コース〕

医学教育部博⼠課程には、発⽣・再生医学に関する学際的な緒領域を包括的に理解して、将来の発⽣・再生医療を実践する上で解決すべき諸問題に挑む先導的な研究者および医師を育成することを⽬的として、「発⽣・再生医学研究者育成コース」が設置されています。コース独自の授業科目はすべて英語で開講されます。

〔柴三郎プログラム〕

本学医学科の学部⽣が、学部のうちに大学院の単位を取得できるブレ柴三郎コース、卒業臨床研修を受けながら同時に医学教育部博⼠課程で大学院⽣として研究ができる柴三郎コースがあります。女性の基礎研究医の育成を促進するため、女性柴三郎コースも設置しています。奨学金等の支援を受けることができます。